整形外科　研修プログラム

１　研修先

整形外科

２　指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

３　診療科基本スケジュール

（１）　**研修期間**　　自由選択研修　２週間以上
２週間コース（外傷初期診断・治療を中心に研修）
４週間以上コース（外傷初期診断・治療、慢性疾患など総合アドバンスコース）

（２）配置予定

	自由選択研修
病　棟	指導医・上級医の下で受持医
外　来	指導医・上級医の下で診察見学
検　査	整形外科的検査法を見学、整形外科的検査法を実施
救　急	時間内救急対応　整形外科輪番対応（準夜勤）

（２）週間予定表

	午　　前	午　　後
月	術前カンファレンス　手術	手術　病棟
火	手術	手術　病棟
水	外来　（手術）	（手術）　病棟
木	手術	手術　病棟
金	外来　（手術）	（手術）病棟回診　病棟カンファレンス

※　整形外科輪番日（第１，３週の火曜日）には準夜勤（17:00~24:00）とする

４　研修目標

【一般目標】　２週間コース（１，３を中心）　　４週間以上コース（１～４）

１．救急医療：四肢および脊椎・脊髄等の運動器における救急疾患に対応できる診察能力を習得する。

２．慢性疾患：四肢および脊椎・脊髄等の運動器における慢性疾患の診察能力について習得する。

３．基本手技：四肢および脊椎・脊髄等の運動器における診断と治療法の手技を理解し習得する。

４．医療記録：医療記録に正確に記録し、診療をすすめていくことを習得する。

【行動目標】

１．救急医療：

１）開放創の処置ができる。

２）X線やCTの読影ができる。

３）骨折・脱臼の初期治療（整復・固定・牽引療法）の基本ができる。

４）多発外傷における整形外科処置の基本ができる。

５）小児の外傷に対する基本処置ができる。

６）高齢者の外傷に対する基本処置ができる。

２．慢性疾患：

1）運動器の慢性疾患に対して病態を説明できる。

2）運動器の慢性疾患に対して画像の読影ができる。

3）運動器の慢性疾患に対して基本的処置や治療ができる。

3．基本手技：

1）整形外科的計測（関節可動域測定、徒手筋力検査等）ができる。

2）脊椎・脊髄、末梢神経に対する神経学的診察ができる。

3）関節穿刺、薬剤の注入ができる。

4）創処置や簡単な傷処理ができる。

5）清潔操作を理解する。

6）手術の助手ができる。

4．その他

1）病歴を聴取し、正確に記載できる。

2）Ｘ線などの画像所見や各種検査を理解し、正確に記載できる。

#	代表的行動	知 識	態 度	技 能
①-1	整形外科の一般的な現病歴、既往歴等などの聴取法を理解する。	●	○	○
①-2	症状および身体所見から病変や損傷部位・疾患の推測を行う。	●		○
①-3	病状の緊急性を判断し、必要時は専門医・救命救急医に速やかに連絡する。	●	●	○
①-4	疾患の推測・必要な検査・治療方針等について上級医に説明する。	●	●	○
①-5	画像検査（単純X-P、CT、MRI、超音波など）の評価法、診断知識を習得する。	●		●
①-6	神経学的な検査法を行い、運動麻痺や筋力低下の評価を行う。	●		●
①-7	適切な臨床推論のプロセスを経て鑑別診断や初期対応法を考える。	●		
①-8	整形外科分野の経験すべき内容（高エネルギー外傷・骨折・腰背部痛・関節痛・運動麻痺・筋力低下）に関する疾患に関して経験する症例ごとに専門医より講習を受け知識を習得する。	●		
②-1	患者や家族の社会的背景や検査や治療に対する意向を収集し、上級医と検査や治療方針を検討しまとめる。	●	●	●
②-2	カンファレンスに参加し症例報告を行い検査や治療方針をまとめる。	○	●	
②-3	上級医と個々の症例に関して文献などで情報収集を行う。	○	●	
②-4	希望者は専門医の指導下に研究会・学会発表・論文作成を行う。	●	○	
③-1	社会的背景を考慮し、多職種で連携をとり、退院支援を計画する。	●	●	●
③-2	運動器身体障害申請の適応と内容について理解する。	●		
③-3	治療介入後の病態に応じて、退院支援看護師・メディカルソーシャルワーカーなどを交えて情報交換を行う。	●	○	●
③-4	退院時に必要であれば患者に創部処置方法を指導する。		●	●

#	代表的行動	知 識	態 度	技 能
①-1	患者や家族、かかりつけ医から身体的・精神的・社会的な背景も含めて適切に情報を収集する。		●	○
①-2	認知症患者の入院前のADLについて、家族、ケアマネージャー、施設職員などから適切に情報収集する。またFIMなどで客観的に評価を行う。	●	●	○
①-3	健康状態に関する情報を上級医にプレゼンテーションする。	●	●	●
②-1	ギプス固定や副子固定の適応や注意事項を理解し実際に行う。	○		●
②-2	下肢直達牽引を経験する。	○		●
②-3	デブリドメン・皮膚縫合などの外傷処置を経験する。	○		●
②-4	創部消毒とガーゼ交換を行う。	○		●
②-5	局所麻酔法を経験する。	○		●
②-6	圧迫止血法、包帯法を行う。	○		●
②-7	簡単な切開排膿を行う。			●
②-8	細菌培養の適応を理解し検体採取する。	●		
②-9	外傷初期に適切な抗菌薬を選択し、意義を理解する。	●		●
②-10	関節穿刺や血腫穿刺などを行う。			●
②-11	周術期管理を行う。	●	●	●
②-12	術前カンファレンスで検討した上で手術に参加する。		●	
③-1	骨・関節・筋・神経系の診療録記載を的確に行う。	○	●	●
③-2	上級医とともにICに参加し内容を的確に記載する。		●	○
③-3	SOAPに沿って診療録を記載し新たな判断や検査を行う際には、その根拠をカルテに記載する。	●	●	●
③-4	退院時の診療情報提供書を上級医の指導のもと作成する。		●	
③-5	退院時サマリーを遅延なく作成し、上級医のチェックを受ける。	●	●	●
③-6	入退院療養計画書を作成する。	●		●
③-7	中間病歴要約を作成する。			●

5　経験すべき症候・疾病・病態　（赤文字下線付きは必須項目）

経験すべき症候(※1)	熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛
経験すべき疾病・病態(※2)	高エネルギー外傷・骨折

※1　外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。
※2　外来又は病棟において、上記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

6　経験すべき手技

圧迫止血法、包帯法、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開排膿、皮膚縫合、軽度の外傷・熱傷の処置

7　実際の業務

1．病棟研修

月曜日から金曜日まで患者を担当し、指導医とともに病棟診療を行う。

2．外来研修

水曜日、金曜日の午前中に指導医とともに外来診療を行う。

手術がある場合は希望時に手術に参加できる。

３．検査、ブロック

整形外科に特徴的な身体検査法やエコー検査、各種神経ブロックなどの基本手技を習得する。

４．手術

月曜日、火曜日、木曜日、手術に助手として参加し基本手技を習得する。

その他の曜日でも手術があれば参加できる。

４．カンファレンス、検討会、病棟回診

月曜日の午前、術前カンファレンスに参加する。金曜日午後、病棟総合回診に参加する。

担当症例のプレゼンテーションを行う。院内外のカンファレンス、講演会に積極的に参加する。

５．救急研修

指導医とともに、救急患者に対応する。整形外科輪番日には準夜勤とする。

８　指導内容

適時指導を行い整形外科疾患の診断や検査方法、治療方針を習得する。

病棟・外来・救急センターで整形外科的治療や基本手技を習得する。

手術の助手や術者として整形外科手技の基礎を習得する。

症例プレゼンテーションや診療録に関するフィードバックを行う。

個々の症例の治療全般に関する指導を行う。

９　方略・評価

指導医合議、看護師合議による評価を行う。

研修終了後に指導医からの評価やフィードバックを受ける。